

## 第6学年社会科学学習指導案

公開授業②

日時 令和7年11月18日(火)

児童 6年1組 28名

指導者 馬場 渉

1 単元名 近代国家を目ざして(教育出版 小学社会6)

2 単元について

(1) 教材観

本単元の内容は、学習指導要領において以下のように位置づけられている。

(2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

(コ) 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解すること。

(シ) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

(2) 児童観

本学級の児童は、意欲的に学習に取り組む児童が多い。また、学習問題の解決に向けて、教科書等の資料の読み取りを丁寧に行うことができる。歴史の学習において、資料や前時までの学習から予想を深める時間、学習問題を解決するために資料を読み取り、ノートにまとめる時間、学習問題に対してキーワードを基に学習課題に対するまとめを自分で考えて書く時間など、単元ごとに学習活動の重点を決めて取り組んできた。前単元の「明治の新しい国づくり」の学習では、明治政府の国づくりの意図や目的を推論する学習を行い、本単元とのつながりを深めてきた。本単元では、不平等条約改正に向けた明治政府の歩みや、条約改正後の国際的地位が向上した日本の様子について調べたことを基に多角的に推論・説明する力を身に付けさせたい。

(3) 指導観

前単元では、ペリーが来航し不平等条約を結んだこと、江戸幕府が倒れ新政府が新たな国づくりを目指したことを学習した。本単元では、西洋の国と対等な関係を築くために国家の近代化を進めたことを、前単元の学習と関連付けながら進めていく。また、不平等条約が改正されていく経緯や、その後諸外国との関係が変化し、産業が発展していくことを学習していく中で、国際社会における日本の地位が向上していったことを捉えられるように指導していく。また、戦争を学習するにあたって、当時の国家にとってプラスの面とマイナスの面の両面に触れながら丁寧に指導にあたる。

本校の研究に関わる内容として、手立て1【対話を生み出すための工夫】については、日本がどのようなことをすれば国際的地位が向上し、欧米列国に対等な国として認められるかを予想させる時間を大切にしていく。また、単位時間の授業の振り返りには、対等になるために足りないことは何かを問いながら学習を進めていく。また、手立て2【対話の充実を図るための工夫】については、単元の後半で条約改正後の日本の様子を想像させるとともに、根拠を基に日本が世界に進出したことによる国内の変化を捉えさせる。児童同士の対話、授業者との対話、資料との対話を充実させ、主体的に学習するための一助としたい。

### 3 単元の計画

#### (1) 目標

- 日本の国力が充実し国際的地位が向上したことについて理解するとともに、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料の活用を通して、情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付ける。【知識及び技能】
- 条約改正に向けた取り組みの特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。【思考力、判断力、表現力等】
- 条約改正に向けた取り組みについて主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。【学びに向かう力、人間性等】

#### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの資料で調べ、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などを理解している。 ②調べたことを年表などにまとめ、日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。	①世の中の様子などに着目して、問いを見だし、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などについて考え、表現している。 ②条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	①条約改正に向けた取り組みについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

#### (3) 指導と評価の計画(全9時間)

時	ねらい	○学習活動・学習内容	記録	評価規準/評価方法
1	ノルマントン号事件について調べ、不平等条約の改正を願う人々の思いを考え、表現する。	○不平等条約の影響や、政府・国民の考えを調べ、条約改正までの動きに興味をもつ。 ・政府が西洋化・近代化を進め条約改正を実現しようとしたこと。ノルマントン号事件をきっかけに条約改正を求める国内の声が強まったこと。		・思① ノルマントン号事件の経緯などから、疑問をもち、人々が不平等条約の改正を願っていたことを考え、表現している。【発言、ノート】
2	条約改正への歩みに着目し、条約改正を達成するまでの出来事について学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。  学習問題 不平等条約の改正はどのようにして実現されたのだろうか。	○二つの年表の読み取りから、不平等条約について学習問題をつくり、学習計画を立てる。	○	・思① 不平等条約の改正について問いを見だし、学習問題として表現している。(発言、ノート) ・態① 学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。【発言、ノート】
3	西南戦争や自由民権運動の高まりについて調べ、人々が新しい政治に対しても	○自由民権運動や西南戦争について調べ、人々がどのような政治を期待していたのかを考える。 ・明治政府が行った政策に対しては		・知① 国民の意見を政治に取り入れることを求めて、自由民権運動が起こったことを理解

	っていた願いを捉える。	反対の動きもあったこと。広く国民の意見を取り入れた政治を求める運動が起こり、広まったこと。		している。【発言、ノート】
4	大日本帝国憲法の発布や国会の開設について調べ、明治政府が目ざした政治のあり方がどのように実現したのかを捉える。	○大日本帝国憲法の条文や大日本帝国憲法下での政治の仕組み、制定の過程から、明治政府が目ざした政治のあり方について考える。 ・大日本帝国憲法が制定され、天皇主権のもとで国民の権利も一定認められるようになったこと。憲法に基づいて議会政治が始まったこと。		・知① 大日本帝国憲法の内容や国会を開いたことから、明治政府が目ざした政治の考え方を捉えている。【発言、ノート】
5 (本時)	日清・日露戦争について調べ、日本と世界の国々との関係の変化を捉える。	○大日本帝国憲法の条文や大日本帝国憲法下での政治の仕組み、制定の過程から、明治政府が目ざした政治のあり方について考える。 ・大日本帝国憲法が制定され、天皇主権のもとで国民の権利も一定認められるようになったこと。憲法に基づいて議会政治が始まったこと。		・知① 二つの戦争の経緯や結果から、日本と世界の国々との関係がどのように変化したか捉えている。【発言、ノート】
6	日露戦争の影響や朝鮮併合、条約の改正について調べ、日本と外国との関係の変化を多面的に捉える。	○日露戦争後の様子や朝鮮併合の経緯を調べ、その影響について多面的に考え、不平等条約が改正された背景や理由を考える。 ・日本が大きな犠牲を出しながらも日露戦争に勝利し、更に朝鮮を併合したこと。日本が国力を向上させていく中で条約改正が達成されたこと。	○	・知① 日本と外国との関係の変化やその影響をさまざまな立場から多面的に捉えている。【発言、ノート】
7	産業の発展や日本人の国際社会での活躍について調べ、日本の国力が充実したことや国際的な地位が向上したことを捉える。	○日本の産業がどのように発達していったのかを調べ、その影響について考える。 ・産業の発展の一方で公害問題も発生したこと。日本人が国際社会で活躍するようになったこと。		・知① 日本の産業や科学の発展から、国力が充実したことや国際社会での地位が向上したことを理解している。【発言、ノート】
8	暮らしの変化や権利を求める運動について調べ、社会が変化したことを捉える。	○女性運動や全国水平社、普通選挙運動について調べ、人々が求めている社会のあり方を考える。 ・近代化の進展を背景に、民主的な社会を求めるさまざまな運動が起こったこと。		・知① 暮らしの変化とともに人々が民主主義を求める社会に変化したことを捉えている。【発言、ノート】
9	調べたことをまとめ、明治政府の政策による社会の変化や産業・科学の発展を捉え、条約改正の達成と関連付け、日本の国際的地位が向上したことを考え、表	○学習してきた、条約改正に向けた明治政府の動きをまとめ、どのように条約改正が達成されたか考える。	○	・知② 調べたことを年表などにまとめ、日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。 ・思② 明治時代の政治や社会の変化と条約改正を関連づけ、日本の

現する。		国力や国際社会での地位の向上を考え、表現している。 【発言、ノート】
------	--	---------------------------------------

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標 (5時間/全9時間)

日清・日露戦争について調べ、日本と世界の国々との関係の変化を捉える。

##### (2) 評価規準

二つの戦争の経緯や結果から、日本と世界の国々との関係がどのように変化したのかを捉えている。(発表・ノート)

概ね満足できる児童の姿	支援を要する児童への手立て
日清・日露戦争について調べ、朝鮮をめぐる清との戦いに勝利し、国際的に警戒されるようになったことや多くの犠牲を出しながらロシアと戦争をしたことなどを理解している。	風刺画を読み取り、日本と諸外国の国際関係を捉えられるようにする。

##### (3) 展開

過程	学習活動 ・児童の反応	指導上の留意点 (・) 評価 (◎)
導入 5分	<p>1 学習問題の把握 ○教科書 P186 資料ア「条約改正への歩み ②」から本時の学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日清戦争・日露戦争とは、どのようなできごとだったのだろう。</p> </div> <p>2 学習問題の予想 ○戦争をする理由や勝敗を予想する。 ・富国強兵したことを知らしめるため。 ・勝って、日本の強いところを見せたい。 ・不平等条約を改正するため。</p>	<p>・風刺画の様子について自由に話させ、人や魚が国を表していることや、どのような状況かを問う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【対話を生み出すための工夫】 日本が何のために戦争をするのか予想させながら風刺画を読み取らせる。</p> </div>
展開 32分	<p>3 問題の追究 ○日清戦争について教科書 P192 を用いて調べる。 ・日本は朝鮮に不平等な条約を結ばせていた。 ・朝鮮の支配をめぐる争ったことが戦争のきっかけだった。 ・講和条約を結び、台湾、遼東半島を領土にした。 ・多額の賠償金を得て8割以上を軍備拡張費に使った。 ・清に朝鮮の独立を認めさせた。</p>	<p>・教師が本文を範読し、児童は戦争が起きたきっかけ、場所、勝敗等が分かるところにアンダーラインを引かせるとともに、発表したことを板書に整理する。</p> <p>・日本の領土の変化(教科書 P194 資料エ)を掲示し、日本が手に入れた領土や対戦地を児童の説明とともに示し、可視化を図る。</p> <p>・自力解決の時間を取り、その後、戦争が起きたきっかけ、場所、勝敗等の順に発表させ、板書に整理する。</p>

	<p>○日露戦争について教科書 P193 を用いて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米諸国はアジアで勢力を広げていた。</li> <li>・ロシアは遼東半島を清に返すように要求し、日本は返還した。</li> <li>・満州で勢力を広げているロシアと戦う声は日本で起こり、日露戦争が始まった。</li> <li>・旅順の戦いで勝利。日本海海戦でも勝利。</li> <li>・戦死者や戦費は日清戦争に比べて多かった。</li> <li>・日本は兵力や物資をつぎ込む力がなくなった。</li> <li>・ロシアも国内で革命が起こり、ポーツマスで講和条約を結んだ。</li> </ul>	
<p>終末8分</p>	<p>4 学習のまとめ</p> <p>日清戦争は、朝鮮の支配をきっかけに始まり、日本は勝利した。</p> <p>日露戦争は、ロシアと戦うべきという意見が強くなったことをきっかけに始まり、リュイシュンの戦いと日本海海戦で日本は勝利した。</p> <p>○本時で調べたことを基に日本がなぜ戦争をしたのか考える。</p> <p>5 学習の振り返り</p> <p>6 次時の確認</p>	<p>・主語を用意し、その後は自分でまとめの文章を記入するように促す。</p> <p>◎知① 二つの戦争の経緯や結果から、日本と世界の国々との関係がどのように変化したか捉えている。【発言・ノート】</p> <p>【対話を充実させるための工夫】</p> <p>2つの戦争から不平等条約の改正との関連を問ひかけ、日本がたいへんな思いで戦争をしていたことを考えさせる。</p> <p>・本時の学習を振り返り、日露戦争の後の日本について問ひかけ、次時の学習への意欲を高める。</p>

(4) 板書計画

**1/8 P192 (火)**

① 日清戦争・日露戦争とは、どのようなできごとだったのだろう。

② 日清戦争は、朝鮮の支配をきっかけに始まり、日本は勝利した。

③ 日露戦争は、ロシアと戦うべきという意見が強くなったことをきっかけに始まり、リュイシュンの戦いと日本海海戦で日本は勝利した。

**Timeline:**

- 1858年 アメリカと日本が日清通商条約を結ぶ (同様の条約を二国と結ぶ)
- 1868年 明治政府ができる
- 1871年 岩倉使節団が日本を出発する
- 1883年 露清戦争が完了する
- 1886年 ノルマントン号事件が起こる
- 1889年 大日本帝国憲法が公布される
- 1890年 国会が開議される
- 1894年 イギリスとの交渉で領土権を譲渡させ、朝鮮自主権の一部を回復させる。日清戦争が起こる(1895年)
- 1902年 日英同盟が結ばれる
- 1904年 日露戦争が起こる(1905年)
- 1911年 朝鮮自主権を回復させる。

**War Details:**

- 日清戦争: 不平等な条約 → 朝鮮の支配 → きっかけ → 朝鮮・清 → 日本(勝) → 清に返還 → 講和条約 (下関) → 台湾 遼東半島 → 多額のぼろい金 (日本の予算の3倍) → 8割を軍事費 → 朝鮮の独立を認めない
- 日露戦争: 欧米諸国 アジアで勢力を広げるロシア → 満州で勢力を広げるロシア → 戦い(旅順) → 清・日本海 → 戦死者多 → リュイシュンの戦い(勝) → 日本海海戦(勝) (東郷平八郎) → ② → 兵力 物資 × (露) → 革命 → ポーツマスで講和条約

**Map:** 中国(清) 朝鮮 日本 台湾 1000km

**Illustration:** Battle scene with soldiers and a ship.